

研究報告執筆要領

- 1) 原稿の構成は、表題・著者名、概要、キーワード、本文、参考文献、付録の順序とする。
- 2) 表題・著者名：日本語表題、日本語著者名、日本語所属、英語表題、英語著者名、英語所属の順序で、中央寄せで記述する。
- 3) 概要：英文150ワード以内、あるいは和文400文字以内で記述する。
- 4) キーワード：日本語キーワードを5つ程度書くこと。
- 5) 本文：章・節・項、等の見出しをつけて読み易くし、それぞれ1 2 3…、(1) (2) (3)、a b c…の順に区別する。

(例)

- 1. …………… 第1章
- 1. 1 …………… 第1章第1節
- 1. 1. 1 …………… 第1章第1節第1項
- (1) …………… 細別項目の第1段
- (a) …………… 細別項目の第2段
- ① …………… 細別項目の第3段
- ② …………… 細別項目の第3段
- (b) …………… 細別項目の第2段
- (2) …………… 細別項目の第1段
- 1. 1. 2 …………… 第1章第1節第2項

- 6) 参考(引用)文献：記述内容に直接関連のある文献は、主文中における該当箇所の肩上の()内に番号を示す。以下に書籍と雑誌の場合の例を示す。

(例)

- (1) 対馬勝英、加賀英徳、中村勝則：“数式処理におけるDMI 機能の実現”、CAI 学会誌、Vol. 7、No. 2、pp. 43-53 (1990)
- (2) 岡本敏雄、松田昇：“知的CAI における幾何の証明計画の認識と学習機能について”、情報処理学会論文誌、第30 巻、第8号、pp. 1046-57 (1989)
- (3) 日本情報処理開発センター編：“CAI システム”、日刊工業新聞社、東京 (1972)
- (4) Rockart, J. F. and Morton, M. S. S. : “Computers and the Learning Process in Higher Education” , McGraw Hill, New York (1975)

外国参考文献の書き方ルールは次のとおりである。

* 単行本、テクニカルレポート等のタイトルはkeyword の最初の文字を大文字で書き、雑誌に記載された論文名は最初の文字だけ大文字にする。また、タイトルはダブルクォーテーションマーク “ ” で囲む。

* 英文著者名は姓を先に書き、4名以上のときは、3名までを書き、他はet al. とする。

7) 付録：長い数式の誘導、装置、計算機についての説明などの詳細が必要なときは、付録にした方がよい。

8) 図表：明瞭に書く。図および表は、論文全体を通じて通し番号をつけ、図のタイトルは下欄に、表のタイトルは上欄に表示する。写真は図として扱う。カラーの図や写真を使うことができるが不鮮明にならないように留意すること。

9) 書式：原稿はA4 版の用紙を使用し、表題からキーワードまでを1段組、本文以降を2段組として、以下の書式に従うこと。

マージン：上下左右15mm

本文文字数行数：10ポイントで横24文字、縦41行、行間10mm の2段組

フォントサイズ：表題18pt、著者名と所属12pt、章タイトル12pt、それ以外10pt

フォント：表題、著者名、所属、章節タイトルはゴシック系、それ以外は明朝系

10) 制限枚数：2ページ以上、8ページ以内とすること。

11) 文体、用語：文体は「である」調とし、学術用語は文部省の規定があればそれに従うこと。外国名は外国綴りのままとし、ブロック書きで書く。

12) 著作権：研究報告論文の著作権は、著者に帰属する。但し、著者は、教育システム情報学会に対し、投稿した研究報告論文を、学会活動の範囲内で、あらゆる態様で使用および利用することを認めるものとする（学会が、学会活動のために、第三者に当該研究報告論文の複製、翻案および翻訳等を行わせる場合を含む。）。